



JAPAN BARISTA CHAMPIONSHIP 2026

OFFICIAL RULES & REGULATIONS

based on
WORLD BARISTA CHAMPIONSHIP 2026
RULES & REGULATIONS



目次

1. 参加条件	5
1.1 組織	5
1.2 権利	5
1.3 参加資格	5
1.4 コンフリクト（利益相反）	6
1.5 ルール&レギュレーションの施行	7
1.6 安全衛生条項	7
1.7 申し込み	7
2. 競技会	9
2.1 概要	9
3. ドリンクの定義	10
3.1 エスプレッソ	10
3.2 ミルクビバレッジ	10
3.3 シグネチャービバレッジ	11
4. 競技手順	13
4.1 概要	13
4.2 競技エリアの概要	14
5. 機器、アクセサリ、及び原材料	15
5.1 エスプレッソマシン	15
5.2 グライNDER	15
5.3 追加機材	16
5.4 提供される機器及び供給品	16
5.5 持参することを推奨する機材及び備品	16
6. 競技者が準備時間の前にすべきこと	18
6.1 競技者オリエンテーションミーティング	18
6.2 準備スペース及びリハーサル室	18
6.3 練習時間	18
6.4 競技中の音楽	18
6.5 時間厳守	19
6.6 ステーションセットアップ	19
6.7 サポーター／アシスタントのステージ立ち入り禁止	19
6.9 ステージ上への機材運搬	19
7. 準備時間	19
7.1 準備時間の開始	19
7.2 コンテナ及びカートの取り扱い	20
7.3 審査員用プレゼンテーションテーブル	20

7.4 試し抽出.....	20
7.5 カップを事前に温めておくこと.....	20
7.6 準備時間の最後に.....	20
8. 競技時間（Competition Time）.....	20
8.1 マイク使用及び司会者からの紹介.....	20
8.2 競技時間の開始.....	21
8.3 競技者自己紹介（ジャッジへの挨拶）.....	21
8.4 規定のドリンクの提供.....	21
8.5 ボランティアスタッフが提供されたドリンクを下げることについて.....	21
8.6 作業エリアの区画周辺について.....	22
8.7 競技時間の終了.....	22
8.8 競技終了後のコミュニケーション.....	22
8.9 タイムペナルティ.....	22
8.10 コーチング.....	22
9. 技術的な問題について.....	22
9.1 妨害行為について.....	23
9.2 アクセサリーを忘れたら.....	23
10. 片付時間.....	23
12. 競技終了後.....	24
12.1 採点.....	24
12.2 デブリーフィング（振り返り）.....	24
13. 評価基準.....	25
13.1 ジャッジがバリスタチャンピオンに求めているもの.....	25
13.2 評価基準と採点.....	25
14. テクニカル（技術面）の評価方法.....	27
14.1 テクニカルスコアシート – Part I.....	27
14.2 テクニカルスキル：エスプレッソ – Part II.....	27
14.3 テクニカルスキル：ミルクビバレッジ – Part III.....	28
14.4 テクニカルスキル：シグネチャービバレッジ – Part IV.....	28
14.5 テクニカルスキル – Part V.....	29
15. センサリー（官能面）の評価方法.....	30
15.1 エスプレッソの評価 – Part I.....	30
15.2 ミルクビバレッジの評価 – Part II.....	31
15.3 シグネチャービバレッジの評価 – Part III.....	32
15.4 バリスタとしての評価 – Part IV.....	33
15.5 総合的な印象 – Part V.....	33
16. JBC における不服申し立て.....	34
16.1 審査／採点に関する問題.....	34
16.2 その他の問題.....	34

16.3 嘆願要請.....	34
16.4 SCAJ バリスタ委員会における再検討される嘆願について	35
17. CB が主催するイベント	35
17.1 CB 向けルールバリエーション	35
17.2 CB が開催するイベントにおける嘆願.....	36

※目次の番号は World Barista Championship の R&R に準拠しています。

※国内大会で該当しない世界大会の一部 R&R 項目は削除しています。

2026 年 5 月 12 日 SCAJ バリスタ委員会作成

1. 参加条件

1.1 組織

World Barista Championship (WBC) は、World Coffee Events, LTD (WCE) が運営するプログラムです。WCE は、スペシャルティコーヒー協会 (Specialty Coffee Association、SCA) の完全子会社です。

日本スペシャルティコーヒー協会 (以下、SCAJ) が主催するジャパンバリスタチャンピオンシップ (以下、JBC) は World Barista Championship の日本代表選考を兼ねて開催され、大会は WBC ルール & レギュレーションに準拠して運営されません。

1.2 権利

World Barista Championship に関するすべての知的財産権 (本公式ルール & レギュレーションや大会フォーマットを含む) は、World Coffee Events, LTD に帰属します。本書の内容を無断で使用または複製することは、WCE の明示的な許可がない限り禁止されています。

1.3 参加資格

1.3.1 コンペティションボディ (CB=競技団体) の資格要件

World Barista Championship (WBC) は World Coffee Events (WCE) が公認する競技大会で CB チャンピオンの資格を得た者のために開かれる大会です。公認大会は、WCE の許可を受けたコンペティションボディによって開催されます。競技年度ごとに、各 WCE ライセンスコンペティションボディから 1 名ずつ参加することができます。WCE 認可コンペティションボディになるための詳細については、<https://wcc.coffee/competition-bodies> に記載されているコンペティションボディ認可基準と規約をご覧ください

なお、各コンペティションボディの競技会運営に関与しているコーディネーターや個人は、その年の大会には出場できません。ここでの「その年」とは、当該コンペティションボディが大会の準備を開始した時点からを指します。

1.3.2 CB チャンピオンと代理代表選手

- A. CB チャンピオンは、コンペティションボディの開催する選手権を優勝した競技者と定義されます。この選手は、その年の世界大会で競技する権利を獲得した者、またはその出場権を翌年に繰り延べる権利を取得したものです。競技者は、正当な理由がある場合に限り、出場権を翌年に繰り延べるすることができます (出場権繰り延べポリシー - Deferred Candidacy Policy の詳細はこちらを参照してください: <https://wcc.coffee/rules-regulations#deferred-candidacy>)
- B. CB チャンピオンの出場権の繰り延べ申請が正しく行われた (受理された) 場合、ナショナルチャンピオンとしてのタイトル (肩書き) を保持し、翌年の世界大会に出場することができます。CB チャンピオンによる繰延の登録が認められたら、ライセンスを受けているコンペティションボディは国内競技会の 2 位の選手から順番に世界大会に出場する代理競技者を指名することができます。この場合、世界選手権に出場する競技者は国内競技選手権の代表としての「Competition Body Competitor (CB 競技者)」のタイトルを保持します。CB コンペティターは翌年への出場権の繰り延べ申請をする資格はなく、「CB チャンピオン」のタイトルを持ちません。しかし、すべての CB 競技者は WCC ワールドコーヒーチャンピオンシップに参加することで自身のコーヒーコミュニティを代表する資格があり、「世界コーヒーチャンピオン」のタイトルを勝ち取る資格もあります。
- C. CB チャンピオンが出場権繰り延べの対象ではなく、世界大会への出場を辞退する場合、コンペティションボディ

は代理の競技者を派遣することができます。

- D. 出場権利繰り延べ申請者を除き、いかなる理由であれ世界大会に出場しない CB チャンピオンは、その旨を明快にするために、本人が WCC スタッフ (info@wcc.coffee) 宛に通知する必要があります。

出場権利繰り延べ申請者は、詳細を共有する必要はありませんが、代理の CB 代表選手が十分な準備期間を確保できるように、出場を繰り延べる意向を WCC チームに通知してください (ただし、義務ではありません)。

代理選手 (CB 代表選手) に関する申請は、コンペティションボディから info@wcc.coffee 宛に書面で提出され、WCC マネージングディレクターの承認を得る必要があります。

1.3.3 年齢要件

競技者は、World Coffee Events (WCE) の認可イベントで競技に参加する時点で 18 歳以上でなければなりません。

1.3.4 国籍

- A. 競技者は、出場を希望する国の有効なパスポート、もしくは過去 24 か月以上の継続的な居住、就労、または就学を証明できる公的書類の提出が必要とされ、少なくともその期間の一部は、CB 大会開催の 12 か月以内である必要があります。

- B. 競技者は、WCE 競技年度ごとに 1 つの認定コンペティションボディのみから出場することができます。競技年度とは、世界大会への上場資格を得るためのイベントが対象となる年を指します (例: 競技者が 2020 年の世界大会への上場資格を得るためのコンペティションボディイベントに出場する場合、2020 年の WCC 大会の予選となる競技会は、同一のコンペティションボディが開催するものに出場しなければなりません)。

1.3.5 複数のパスポート

複数のパスポートを所持している場合、その出場者は 1 つのコンペティションボディを選択し、そのコンペティションボディの認定チャンピオンシップで出場資格を取得しなければなりません。

1.3.6 費用

認可されたコンペティションボディは、合理的な範囲内で代表チャンピオンに対し、世界大会の会場までの往復旅費及び滞在費を負担する義務があります。上記以外の一切の費用 (例: 食費、保険、超過手荷物費など) は競技者自身の負担となります。WCE はいかなる状況においても競技者の費用負担には責任を負いません。

1.4 コンフリクト (利益相反)

1.4.1 審査

- A. 競技者は、その年の WBC イベントが終了するまで、開催国を問わず、WBC が認定する世界、国内、及び地区レベルの競技会にジャッジを務めることはできません。ジャッジもまた、その年の WBC イベントが終了するまで、開催国を問わず、WBC が認定する世界、国内、及び地区レベルの競技会に競技者として出場することはできません。

- B. ジャッジは、JBC イベントでコーチをしながらジャッジをしてはなりません。登録ジャッジが競技者のコーチとして活動した場合 (メインコーチ、サポートコーチ、コンサルタントも含む)、大会前及びキャリブレーション時にそのコンフリクトを申告しなければなりません。コンフリクトを申告しなかった場合、競技者を失格とすることがあります。ジャッジが、JBC の前に何らかの形で競技者を指導 (コーチングやフィードバック) したことがある場合は、その旨を申告する必要があります。その競技年 (当該する WBC の予選が前年にあった場合はその競技も含む) の競技中は、いかなる形であれ、連絡、相談、審査を行うことはできません。大会中に遵守しなかった場合、競技

者は失格となり、ジャッジは本大会の審査から外れることとなります。

C. 競技者は、CB 競技会のジャッジを選出、推薦することはできません。

1.4.2 キャリブレーションバリスタ

A. WBC やその予選大会（コンペティションボディによる WCE 公認イベント）において、ジャッジキャリブレーションのためのバリスタとして参加した者は、その競技年度内は、いかなる公認大会にも競技者として出場することができません。これは、WCE 公認の CB イベント及び世界大会の両方に適用されます。

B. 競技者がその年の選手権に出場しない場合、キャリブレーションバリスタとして参加することは可能です。また、自国の競技団体大会で世界大会への出場権を得られなかった競技者であれば、同年の世界大会でキャリブレーションバリスタを務めることは可能です。

C. 競技年度とは競技者が世界大会の出場資格を得るための競技会に関連します。

正しい例：2021 年の世界大会でキャリブレーションバリスタを務めた競技者は、2022 年の WBC 出場資格をかけた CB 大会には出場できます。

誤った例：2021 年にいずれかの国の CB 大会（自国でなくても）でキャリブレーションバリスタを務めた競技者が、同じ 2021 年の WBC に出場すること。

1.4.3 その他のコンフリクト

SCAJ バリスタ委員会は競技が開始される前には必ず競技者、ジャッジ及びイベント主催者による潜在的なコンフリクトの可能性（潜在的なコンフリクト）を早期に言明することを推奨します。

JBC イベントの開催前までに潜在的なコンフリクトを言明しない場合、競技者個人の失格となる可能性、もしくはこれらのガイドラインに従わない場合は SCAJ バリスタ委員会によりそのイベントや競技結果の認可を取り下げる可能性もあります。JBC におけるコンフリクトに関する質問、または上記方針の不明点については競技会事務局宛（competition@scajconference.jp）に連絡してください。

1.5 ルール&レギュレーションの施行

JBC では、競技期間中を通じてこれらの公式ルール&レギュレーションが適用されます。競技者がルール&レギュレーションの 1 つ以上違反した場合、ルールに特定の執行方法や結果が明記されている場合を除き、自動的に競技失格となることがあります。ジャッジまたは競技主催者がこれらの規則の 1 つ以上の違反を引き起こした場合、競技者は「WBC における不服申し立てと嘆願要請」もしくは「CB 競技における不服申し立てと嘆願要請」セクションに詳述されている手順に従って嘆願要請を提出することができます。

1.6 安全衛生条項

全てのルール&レギュレーションは、現地、及び会場の、安全衛生上の要件やガイドラインに基づいて変更されることがあります。変更がある場合は競技会の開催前にルール&レギュレーションの変更を E-mail にてお知らせします。これらの変更には、テーブルサイズやレイアウトの変更、提供される器やカップの材質の変更、競技者の準備室や練習室でのコーチやヘルパーの制限、消毒のスケジュール変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

1.7 申し込み

1.7.1 競技者登録フォーム

競技者は、JBC 競技者登録フォームの必要事項をすべて記載の上、協会ホームページより申し込みを行ってください。

定められた期間外の登録行為はすべて無効となります。正式登録は参加登録料の入金確認をもって登録完了とします。期

日までに入金が確認されなかった場合はキャンセル扱いとします。入金期日は登録フォームの入力確認後ご案内します。

1.7.2 CB 大会が直前に行われた場合の登録

世界大会の6週間以内に行われたCB大会におけるチャンピオン（遅延登録対象者）は、大会終了後5日以内に全ての登録書類を提出しなければなりません。これらの基準を満たさなかった場合、世界大会への参加が認められない可能性があります。

1.7.3 競技者からの質問

すべての競技者は個人として例外なく、現行のWBCルール&レギュレーション及びスコアシートをよく読み、理解をする責任があります（JBCルール&レギュレーションはWBCルール&レギュレーションに準拠しています）。ルール&レギュレーションを含むすべてのJBC関連書類は、協会ホームページからダウンロードできます。競技者がルール&レギュレーションについて不明な点があれば、E-mailにて競技会事務局宛（competition@scajconference.jp）に連絡してください。また、競技者は競技会の開始前に開催される公式の競技者ミーティングで質問をする機会もあります。

1.7.4 規約

WBC/JBC 競技者及び優勝者は、スペシャルティコーヒー業界のロールモデル（模範）であることが求められます。そのため、以下の事項に同意・遵守する必要があります：

- A. World Coffee Events Ltd. 及びその関連会社・代理人・代表者に対し、競技者の氏名、肖像、または映像を、ビジネス目的（例：マーケティングやプロモーション）で無償使用することを許可すること。
- B. WCC ウェブサイトに掲載されている「競技者行動規範（Competitor Code of Conduct）」を読み、遵守すること。
- C. WCC ウェブサイトに掲載されている「チャンピオン行動規範（Champion Code of Conduct）」を読み、遵守すること。
- D. SCAJ の好評を維持するために、積極的に活動すること。
- E. JBC 優勝者、及び決勝進出者は、翌年以降の SCAJ が企画開催するセミナーのデモバリスタに積極的に参加協力すること。
- F. JBC 優勝者、及び決勝進出者は、JBC に出場しない年度においては、ジャッジキャリアレーションでのキャリアレーションバリスタ（デモバリスタ）に積極的に参加協力すること。

2. 競技会

2.1 概要

- A. JBCには3種類の審査員が存在します：センサリージャッジ、テクニカルジャッジ、ヘッドジャッジ。
全ての競技は、4名のセンサリージャッジ、2名のテクニカルジャッジ、1名のヘッドジャッジによって運営されます。採点を行わないシャドージャッジがステージに同席することがあります。
- B. 競技者は、予選では10分間の競技時間内にエスプレッソ、ミルクビバレッジの2カテゴリーそれぞれから1杯ずつ、計8杯（各カテゴリー4杯）を、準決勝と決勝大会では15分間の競技時間内にエスプレッソ、ミルクビバレッジ、シグネチャービバレッジの3カテゴリーそれぞれから1杯ずつ、計12杯（各カテゴリー4杯）を4名のセンサリージャッジに提供します。
- C. どのカテゴリーのドリンクから提供するかは、競技者の判断に任せられます。ただし、1カテゴリーのドリンクの提供を全て終える前に他のカテゴリーのドリンクの提供を行った場合、競技者は失格となります。
シグネチャービバレッジを構成する原材料の準備と提供に関しては、競技時間内であればいつでも可能です。
- D. エスプレッソ、ミルクビバレッジ・シグネチャービバレッジのそれぞれのカテゴリー内でのドリンクの提供方法は競技者の裁量に任せられます（例えば、1杯ずつ提供するのも、2杯ずつ提供するのも、4杯同時に提供するのも競技者の裁量に任せられます）。センサリージャッジは、競技者からの指示がない限り、提供されたらすぐに審査を始めます。
- E. 同一カテゴリー内のドリンクは、4杯とも同じコーヒーを使用して準備しなければなりません。ただし、カテゴリーが変われば使用するコーヒーは変更可能です。また、同一カテゴリー内の4杯はすべて同じ材料を使い、グループヘッドに表示されている抽出温度も含め同じレシピで準備される必要があります。意図的に異なるドリンクを同一カテゴリー内で提供した場合、最初に提供されたドリンクのレシピと異なるドリンクにはセンサリースコアシート「テイストエクスペリエンス」の項目で0点が与えられます。
- F. 競技中に何杯でもドリンクを作成することができますが、ジャッジに提供されたドリンクのみが評価対象となります。
- G. 食品の提供は可能ですが、どのカテゴリー中においても、それを摂取する（食べる）ことはありません。
- H. ヘッドジャッジには、水を除き、いかなる飲食物も提供することはできません。ヘッドジャッジへの水の提供は必須ではなく、競技者の裁量に委ねられます。飲食物（ドリンクなど）がヘッドジャッジによって評価されることはありません。

3. ドリンクの定義

3.1 エスプレッソ

- A. エスプレッソとは、挽かれたコーヒーによって、1回の連続抽出により、ダブルポルタフィルターの片側から得られた約30ml（1オンス）のドリンクです。
- B. コーヒーとは、コフィア属の植物の果実の種子が焙煎されたものの集合体を指します。
- C. 本競技会では、コーヒーが「グリーンコーヒー（生豆）」の段階、すなわちコフィア属の種子が収穫後の工程の一部として乾燥され、果皮層が取り除かれた状態になった後は、いかなる添加物も加えてはなりません。これには、芳香物質、香料、香水、液体、粉末などに触れることも含まれます。
- D. コーヒーは、ブレンドでも単一地域、単一生産国、単一農園、その他でも構いません。
- E. すべてのセンサリージャッジに完全な状態のエスプレッソを提供しなければなりません。エスプレッソのショットがエスプレッソの定義を満たしていない場合、センサリースコアシートの「テイストエクスペリエンス」及び/もしくは「タクトイルエクスペリエンス」のスコアには、結果としてもたらされた味覚体験が反映されます。エスプレッソは何グラムのコーヒーを使用しても構いません。
- F. エスプレッソはスポンサー提供のマシンで摂氏 90.5 度~96.0 度（華氏 195 度~205 度）の温度設定で抽出されます。この温度帯の範囲内であれば、それぞれのグループヘッドを異なる温度に設定することが可能です。ただし、各ドリンクカテゴリーは一定の温度で提供されるべきです。コンペティションボディ（CB）は、すべてのグループヘッドを同じ温度（*1つの温度）に設定しなければなりません。
- G. 抽出圧は 8.5~9.5bar に設定されます。
- H. 同一カテゴリーのエスプレッソ抽出において、抽出時間の差は 3.0 秒以内であること。そうでない場合、テクニカルスコアシートの「抽出時間（抽出時間の差は 3 秒以内か）」の項目で「No」が与えられます。
- I. エスプレッソ提供時には、クレマが全面を覆い、ブレイクがあってははいけません。
- J. エスプレッソはジャッジが正確なスコアリングを阻害されることなく飲むことのできる容器で提供されなければなりません。例として、次のようなことは阻害要因に含まれます。（容器が熱すぎる場合、容器を持つことができず安全に飲めない場合、ジャッジがエスプレッソ評価手順を実行できない場合など。）エスプレッソは、スプーン（競技者がエスプレッソ評価プロトコルを覆す場合を除く）、ナプキン、及び味の付いていない水とともにジャッジに提供されなければなりません。カップが機能的でない場合、または適切なアイテムがすべて提供されない場合、「Attention to detail（細部への配慮）」のスコアが減点されます。
- K. 挽かれたコーヒー及び水以外のものはポルタフィルターに入れてはいけません。条件を満たさない場合、エスプレッソカテゴリーの全てのテクニカル及びセンサリースコアシートの項目が 0 点となります。

3.2 ミルクビバレッジ

- A. ミルクビバレッジとは、シングル（1）ショットのエスプレッソ（上記エスプレッソ項目に記載されている定義に従う）と、JBC が提供するエスプレッソマシンでスチームされたミルクの組み合わせにより、濃厚で甘いミルクとエスプレッソがバランスよく調和するドリンクです。
- B. 各ミルクビバレッジには最低 1 ショットのエスプレッソが含まれていなければなりません。定義を満たさない場合、味覚評価に反映されます。エスプレッソは何グラムのコーヒーを使用しても構いません。
- C. 市販の無香料のミルクは全て使用できます。プレーン（加糖または無糖）の植物性ミルク及び動物性ミルクを使用することができます。ただし、人乳の使用は禁止で、使用した場合はミルクビバレッジカテゴリーのテクニカル及

びセンサーすべてのスコアが0点になります。

※乳及び乳製品の成分規格等に関する省令(乳等省令)における種別類「クリーム」の使用は認められません。

- D. 市販のミルクを組み合わせたたり、ブレンドしたりすることは認められますが、すべてのミルクが市販されており、必要に応じて指示通りに調製されたものであることが条件です。(例えば、市販の粉ミルクは、パッケージに記載されている指示通りに調製されたものであれば、使用することができます)。ミルクを組み合わせること以外では、ミルクの種類に関わらず、ミルクに添加物を加えてはなりません。競技者は、市販のミルクから成分を除去することができます(例：凍結濃縮など)。ただし、濃縮の過程で他の材料や添加物を使用してはなりません。
- E. 競技者は、原材料をジャッジが確認・検査できるよう、ミルクビバレッジに使用したすべての市販ミルクの元のパッケージ(使用した商品の包装)を持参しなければなりません。開示依頼があった際、元のパッケージを提示しなかった場合、ミルクビバレッジカテゴリーのセンサースコアシートにおけるすべてのカテゴリーで0点となります。
- F. ミルクビバレッジはラテアートを描いて提供するもの、中央に丸く白いミルクを浮かべたパターンで提供するものも自由です。ラテアートのデザインは競技者に委ねられます。
- G. ミルクビバレッジは、ジャッジが正確なスコアリングを阻害されることなく飲むことのできるカップで提供されなくてはなりません。例えば容器が熱すぎて手に持てない場合、安全に飲むことができない場合などにはこの規定への違反となります。ジャッジの採点能力が(カップの機能的な要素)により阻害される場合にはセンサースコアシートの「細部への心配り」のスコアに影響します。
- H. 砂糖、スパイス、粉末状のフレーバーなどを含むがこれらに限定されない材料やトッピングを追加することは一切認められません。これは、ミルクにすでに含まれている成分も対象とされます。添加する事は認められません。添加した場合、センサースコアシートの「テイストエクスペリエンス(味覚体験)」の項目が0点となります。
- I. ミルクビバレッジは、ナプキン、そして味付けされていない水とともにジャッジに提供されなければなりません。条件を満たさない場合、センサースコアシートの「細部への心配り」の項目で減点となります。
- J. 挽かれたコーヒー及び水以外のものはポルタフィルターに入れてはいけません。条件を満たさない場合、ミルクビバレッジカテゴリーの全てのテクニカル及びセンサースコアシートの項目が0点となります。

3.3 シグネチャービバレッジ

- A. シグネチャービバレッジは、競技者の創造性や魅力的で個性的なドリンクを造りだすスキルを明確に示す、エスプレッソベースのドリンクです。
- B. シグネチャービバレッジは液体ドリンクである必要があり、ジャッジがそれを飲む状態でなければなりません。
- C. 競技者は、最低4ショットのエスプレッソ(「エスプレッソ」のセクションの定義に準ずる)を用意しなければならず、それぞれのショットはシグネチャービバレッジ作成中にそれぞれのシグネチャービバレッジに混ぜ合わせなければなりません。用意及び、または使用されたエスプレッソが4ショット未満の場合、センサースコアシートのシグネチャービバレッジカテゴリーの「テイストエクスペリエンス」は0点となります。
- D. シグネチャービバレッジに使用されるエスプレッソは、競技時間内に用意されなければなりません。そうでない場合、センサースコアシートのシグネチャービバレッジカテゴリーの「テイストエクスペリエンス」の項目が0点となります。
- E. エスプレッソの風味がシグネチャービバレッジの中に存在し、他の材料とのバランスが取れているドリンクでなければなりません。
- F. シグネチャービバレッジは、飲用可能ないかなる温度帯でも構いません。
- G. シグネチャービバレッジに使用するいかなる材料の中にも、アルコールやアルコールエキスもしくは、アルコール

の副次物、または規制薬物・違法薬物を使用しないこと。使用した場合、シグネチャービバレッジカテゴリーのセンサリースコアシートのすべての点数が0点となります。

- H. 使用した原材料は、要求があれば全て開示しなければならない。競技者はジャッジが確認・検査できるよう、使用した原材料の元のボトルや包装・パッケージを持参すること。開示依頼があった際、競技者が元のパッケージを提供しない場合、センサリースコアシートのシグネチャービバレッジカテゴリー全ての項目が0点となります。
- I. シグネチャービバレッジに使用される材料は競技時間内に現場で準備、混ぜ合わせることが望ましいです。競技時間中の準備はセンサリースコアシートの「十分に説明、紹介、準備されているか」の項目の評価対象となります。事前準備は特定の材料に関しては許容されます（24時間の浸出が必要なものなど）。
- J. 挽かれたコーヒー及び水以外のものはポルタフィルターに入れてはいけません。条件を満たさない場合、テクニカル及びセンサリースコアシートのシグネチャービバレッジカテゴリー全ての項目が0点となります。

4. 競技手順

4.1 概要

- A. 競技エリア（ステージ）は、複数の競技ステーションがある場合にはそれぞれ連番（例：1、2、3 など）が付けられます。
- B. 各競技者には、開始時間と競技ステーションの番号が割り当てられます。
- C. 各競技者は、下記の時間が与えられます。

予選：

準備時間 10分

競技時間 10分

片付時間 7分

準決勝/決勝大会：

テーブルセットタイム 7分

準備時間 15分

競技時間 15分

片付時間 7分

- D. 上記の各時間帯すべてにおいて、競技者は競技用エリアにいることになります。
- E. 競技の全体スケジュール（タイムスケジュール）は、事前に競技者に提供されます。
- F. 大会は3つのラウンドで構成されます：予選（全競技者）、準決勝（14名）、決勝大会（6名）。
- H. 予選終了時、上位14名が準決勝へ進出します。準決勝終了時、上位6名が決勝大会へ進出します。なお、各ラウンドの得点は次のラウンドには引き継がれません。競技者は、自身の進出が終了するまでスコアシートや得点結果を受け取ることはできません。
- I. 準決勝後、セレモニーが行われ、決勝進出者6名が発表されます。また、決勝大会終了後には表彰式が行われ、6位から1位までが発表・表彰されます。
- J. すべての材料・機材は、各ラウンドにおいてバックステージジャッジによる検査の対象となります。特に準決勝・決勝大会では、ステージに登場する前にカートの内容（機材や材料など）が検査される可能性があります。ジャッジは、使用材料や機材の内容確認（必要であれば試飲など）を求めることができます。ルール違反と判断されたものは、ステージ上で使用することが認められません。
- K. パフォーマンス中、及び公式写真撮影時の競技者の服装には、SCAJによって事前に承認されていない限り、ロゴを入れることはできません。未承認のロゴがある服装は、撮影開始前やステージ上のいかなる時点においても、失格のペナルティのもと、着替えまたは隠す必要があります。ロゴを隠したり着替えたりするための追加時間は競技スケジュール上与えられないため、競技者は準備を整えてステージに上がることが期待されます。服装（または器具）に国旗を入れることはできません。公式行事の写真撮影が終わった後であれば、ステージ上で国旗と共に写真を撮ることは歓迎されます。未承認のロゴが服装や器具にある状態では、競技エリア内での報道インタビューを受けることはできません。

4.2 競技エリアの概要

4.2.1 ステーションの配置

B. SCAJ は、競技者が使用できる設備品の寸法を含めたリストを提供します。その設備品の例は次の通りです：

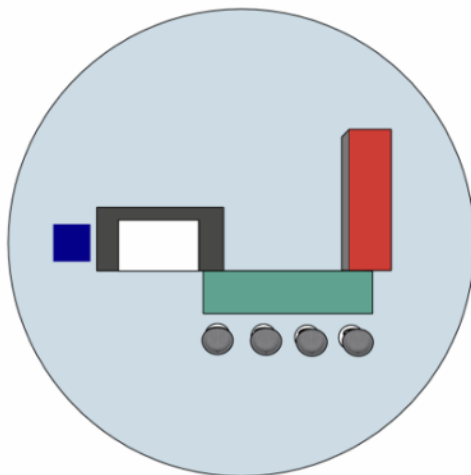
エスプレッソマシンテーブル：約 1.8m（長さ）× 0.90m（幅）× 0.75-1.00m（高さ）

プレゼンテーションテーブル：約 1.8-2.4m（長さ）× 0.60-0.75m（幅）× 0.75-1.00m（高さ）

ワークテーブル：約 1.8m（長さ）× 0.60-0.75m（幅）× 0.75-1.00m（高さ）

※これらの寸法はすべて概算であり、現地では差異がある可能性があります。特に予選におけるプレゼンテーションテーブルは会場により異なります。

E. グライNDERはエスプレッソマシンのどちら側に置いても構いません。



- エスプレッソマシンテーブル(W1.8×D0.90×H0.75 – 1.00m)
- プレゼンテーションテーブル(1.8-2.4L×0.60-0.75W×0.75-1.00H)
- ワークテーブル(1.8L×0.60-0.75W×0.75-1.00H)
- ゴミ箱
- メディア立ち入り禁止エリア(直径 7m)

5. 機器、アクセサリ、及び原材料

5.1 エスプレッソマシン

予選大会：

競技者は、JBC 公式スポンサーのエスプレッソマシンを使用しなければなりません。ステージ上でその他のエスプレッソマシンを使うことはできません。JBC が提供するエスプレッソマシンは、技術的に環境設定されていますので、競技者による変更はできません。エスプレッソマシンは下記のような仕様に調節されています。

- ・抽出温度: 摂氏 90.5 ~ 96.0 度 (華氏 195 ~ 205 度)
- ・抽出圧力: 8.5 ~ 9.5 気圧

準決勝・決勝大会：

競技者は、JBC 公式スポンサーのエスプレッソマシンを使用しなければなりません。ステージ上でその他のエスプレッソマシンを使うことはできません。JBC が提供するエスプレッソマシンは、ポンプ圧の技術的な構成設定 (8.5~9.5 バール) に固定されており、競技者による変更はできません。マシンの抽出温度は摂氏 90.5 度~96 度 (華氏 195 度~205 度) の範囲内で全てのグループヘッドにおいて一律の温度設定で調節することができます。競技者は温度設定を競技者オリエンテーションの際にリクエストしなければなりません。エスプレッソマシンスポンサーが派遣するテクニシャンがリクエストにしたがって温度を設定し、検証します。競技者は練習時間終了後に、JBC ステージマネジメントスタッフに温度設定の変更を申し出ることができます。温度設定のリクエストがない場合、マシンは摂氏 90.5 度~96 度 (華氏 195 度~205 度) の中間に設定されます。

5.1.1 エスプレッソマシン上部への液体や原材料の設置禁止

いかなる種類の液体や原料もエスプレッソマシン上部へ置いたり、こぼしたりしてはいけません。(エスプレッソマシン上部での、お湯に入ったカップの容器の設置、液体や原料を注いだり、混ぜたりする行為、原料を温める行為は許されていません。) もし、競技者が液体や原料をエスプレッソマシン上部に置いた場合、テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目が0点となります。

5.1.2 失格事由

競技者は、エスプレッソマシンまたは提供されるスポンサーグラインダー (準決勝/決勝大会のみ) の構成要素となるものや設定、部品などを変更、調整、交換することは許されていません。ただし、ルールで認められる温度設定変更のリクエストは許されます (準決勝/決勝大会のみ)。いかなる変更や調整も失格事由となります。(例: ポルタフィルター、フィルターバスケット、温度、圧力、スチームワンド・チップなど。) 誤用や乱用により大会で使用する機器を破損した場合、その競技を統括しているヘッドジャッジの判断により失格となります。

5.2 グラインダー

予選大会：

競技者は、JBC 公式スポンサーのグラインダーまたは自身のグラインダーを使用することができます。パフォーマンス中のエスプレッソ準備に使用できるグラインダーは合計 2 台までです。これを超えた場合、テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目が0点となります。

準決勝・決勝大会：

競技者は、競技中の各カテゴリーのエスプレッソを準備するために JBC 公式スポンサーが提供するグラインダーを使用しなければなりません。提供されるグラインダーは会場内でのみ使用可能です。グラインダーはホッパーを含む固定された技術構成となっており、競技者が分解したり機能的な改造を加えたりすることはできません。競技者は外部コントロー

ルを用いて、粒度（メッシュ）やドージング量を調整することができます。提供されるグラインダーは、すべての競技者に対して同一の仕様で構成されます。使用するモデルがスポンサーグラインダーと同一モデルである場合に限り、競技者自身のグラインダーを使用することが認められます。これらのルールに従わない場合は失格の対象となります。パフォーマンス中のエスプレッソ準備に使用できるグラインダーは合計 2 台までです。これを超えた場合、テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目が 0 点となります。

5.3 追加機材

5.3.1 電気機器

競技者は競技時間中に、グラインダー以外に最大 2 つまでの電気機器を使用することができます。競技者は、事前に持ち込む電気機器を競技会事務局に申告してください（例: ホットプレート、ハンドミキサーなど）。申告しなかった場合、その機器の使用を認められない可能性があります。競技者は、持ち込み機器が大会会場で使用できるかどうか、アダプターやコンバーター（電気変換器）が必要でないかなどを、自身で確かめてください。SCAJ ではいかなるアダプターも変換機も用意しません。

※予選においては、2 台目のグラインダーを含め、1500W までの使用となります。

5.3.2 その他の電気機器

競技者は、JBC がスポンサー提供する機器を除き、バッテリー駆動のものであれば何点でも持ち込むことができます。ただし、持ち込み機器が適切に動作する責任は競技者が負うものとします。

5.4 提供される機器及び供給品

それぞれの競技スペースには、次の物が設備されています。

- ・ マシンテーブル（エスプレッソマシン、グラインダー用）
- ・ ワークテーブル（トレイ、グラス類、そのほかのアクセサリ用） ※サイズは会場により異なる場合があります。
- ・ プレゼンテーションテーブル（審査員テーブル） ※サイズは会場により異なる場合があります。
- ・ エスプレッソマシン
- ・ グラインダー
- ・ ノックボックス
- ・ ミルク（JBC スポンサーミルク）
- ・ センサリージャッジ用の水
- ・ ゴミ箱
- ・ コンテナ(準備時間及び片付時間用)
- ・ カート

5.5 持参することを推奨する機材及び備品

競技者は、自身のプレゼンテーションに必要なものをすべて持ち込んでください。持参しなかった場合、プレゼンテーションが完遂できないリスクは競技者の責任となります。移動時もしくは競技中に破損した場合のために、予備品を用意してください。JBC ボランティア、イベントスタッフは、競技者の備品の管理・保管に関して一切の責任を負いません。使用予定のすべての追加機材は、事前に競技会事務局へ申告し、使用可否を確認することが推奨されます。申請には、機器のメーカー／モデル名、写真を添えて提出する必要があります。ただし、現地で未申告の情報や申告内容と異なる点が発見された場合、使用が認められない場合があります。

競技者が持ち込むことができる備品一覧：

- ・ コーヒー（練習用・競技用）
- ・ グライNDER ※準決勝・決勝大会はスポンサーグラインダーと同一モデルである場合に限る
- ・ 必要な調理器具、及び追加の電気機器（最大2個まで）
- ・ その他必要なバッテリー駆動の電気機器（他の規約に反していないものに限る）
- ・ タンパー
- ・ ショットグラス
- ・ スチーム用ピッチャー
- ・ ミルク（SCAJが提供するミルクを使用することもできます。）
- ・ カップ&ソーサー（必要に応じて）
- ・ スプーン
- ・ ナプキン
- ・ 水用のグラス（4人のセンサリージャッジ用）
- ・ 水用の容器（SCAJ提供の水をセンサリージャッジに提供するため）
- ・ バータオルもしくはきれいなクロス（練習用・競技用）
- ・ 清掃用品（カウンター用ブラシ、グラインダー用ブラシなど）
- ・ トレイ（ジャッジへの接客・提供用）
- ・ すべてのアクセサリ（プレゼンテーションテーブル用）

以下、準決勝、及び決勝大会のみ

- ・ シグネチャービバレッジ用に使用するすべての機器、及びアクセサリ

6. 競技者が準備時間の前にすべきこと

6.1 競技者オリエンテーションミーティング

競技が始まる前にオンラインまたは直接会場にて、競技者オリエンテーションミーティングが行われます。このミーティングにはすべての競技者が参加しなければなりません。このミーティングでは、JBC イベントマネージャー及びヘッドジャッジが大会の流れについてのアナウンスや説明を行います。その中で、スケジュールや競技エリアやバックヤードについて説明します。競技者は質問や懸念事項などを JBC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジに質問することができます。競技者による JBC イベントマネージャーもしくはヘッドジャッジにとの事前の打ち合わせがなく、オリエンテーションに参加しなかった場合、その競技者はヘッドジャッジによって失格とされる可能性があります。

6.2 準備スペース及びリハーサル室

競技者には、準備スペース/リハーサル室が用意されます。このエリアのテーブルレイアウトは変更できません。このスペースは、競技者、ボランティア、イベントスタッフのためのものです。事前に申請したコーチ/サポーター（予選は 1 名、準決勝・決勝大会は 2 名）以外、JBC ジャッジ、報道関係者、競技者の家族は、イベントマネージャーの承諾なしに入室することはできません。ステージマネージャーやスタッフから警告を一度受けた後に、再びバックステージ（準備スペース）のルールに違反した競技者は失格となる場合があります。競技者は、自身の機器、アクセサリ、原材料などをこの部屋に保管しておくことができます。この部屋には、原材料を保管しておくために、保冷庫が用意されています。また、食器洗浄用シンクが用意されています。競技者は自身の食器やグラス類などをきれいにしておくようにしてください。また、自身の備品の管理をしてください。ボランティアスタッフは、各競技者の食器備品の破損や紛失に責任を負いません。バックステージエリアにおいて競技者に電源は提供されません。競技者は、バックステージエリアのいかなる電源ソケットにも機器を繋げることは許されません。競技者の練習、準備、ステージ競技の時間外に電源に接続されていることが判明した機器は、撤去されます。

6.3 練習時間

リハーサル室には、ステージ上の競技用機器と同一のエスプレッソマシン及びグラインダー（準決勝・決勝大会のみ）が設置されます。各競技者には、平等な練習時間が割り当てられます。登録されたサポーターのみリハーサル室に入ることが許可されています。練習時間中は備品の準備、テイスティングなど、どのようなサポートも可能です。予選大会時は 10 分間、準決勝、及び決勝大会時は 15 分間の練習時間がそれぞれの競技者に与えられています。練習時間は競技順に基づいて、割り当てられます。（例えば、最初に競技する競技者は、最初に練習時間が割り振られます。）

不測の事態により競技者が割り当てられた練習時間に参加できない場合にはイベントマネージャーもしくはステージマネージャーに連絡してください。

6.4 競技中の音楽

予選大会では競技者は音楽をかけることができません。

準決勝、及び決勝大会では競技者が持参する音楽を自身の競技時間中にかけることができます。音源の持参方法は大会前に競技者に連絡されます。音楽には、冒涇、不敬な言葉が入ってはいけません。もし音源に問題があると感じられた場合、センサリースコアシートの「プレゼンテーション」の項目で減点される可能性があります。競技者は自らの責任において、競技開始前に JBC イベントマネージャーまたは音響映像スタッフに音源を渡してください。返却を希望する場合は自身で受け取ってください。回収されなかった音源は競技会後に処分されます。競技がオンラインで配信される際は、ライセンスフリーの楽曲を使用して配信される可能性があります。

6.5 時間厳守

競技者は、少なくとも準備時間開始の 60 分前には準備スペースにいるようにしてください。自身の準備時間に現場にいない競技者は失格となります。

6.6 ステーションセットアップ

JBC イベントスタッフは、それぞれの競技者の競技ステーションが、準備時間前に、競技者の要望どおりになっているようにする責務を負っています。(例えば、グラインダー、使用する電気機器の位置が競技者の要望どおりになっているかを確認してください)。競技者はテーブルセットタイム中に立ち会わなければなりません。JBC イベントスタッフがステーションをセットした後、必要であれば準備時間内に再調整することは競技者の責任です。

※マシンテーブル上でマシンの移動を希望する際、配管の穴の位置等の都合上、全ての要望に添えない場合があります。

6.6.1 グラインダー及び追加の電気機器

競技者が追加の電気機器を持ち込む場合、または提供されるグラインダーを使用する場合、競技者は大会前に JBC イベントマネージャーに知らせなければなりません。イベントスタッフは準備時間の開始前に競技者に連絡をとり、競技者がイベントスタッフに持ち込みの電気機器や提供されるグラインダーの運搬を手伝ってほしいかどうかを確認します。しかし、これらの機器が設置された段階において、競技者はこれらの機器にイベントスタッフの許可なしに触ることはできません。即座にその場から離れてください。

※準備時間が始まるまでは、グラインダーにホッパーが装着されているか否かに関わらず、コーヒー豆をホッパーに入れることはできません。

6.7 サポーター／アシスタントのステージ立ち入り禁止

競技者、イベントスタッフ以外は、競技者の準備、競技時間中にステージに上がってはなりません。これに従わない場合は失格になることがあります。

6.9 ステージ上への機材運搬

競技者が自身の備品や材料を競技エリアに運ぶのにコンテナもしくはカートを使用できます。準備時間前に、競技者はコンテナ及びカートに自身が使用する食器・備品・材料を積み込んでください。準備スペースから競技ステーションまで、自身でコンテナ及びカートを運んでください。ステージ上に上がったら、担当スタッフは、競技者に自身の仕様どおりにセットされているかを尋ねます。競技者が「はい」と答えたら、担当スタッフはステージから離れます。競技者が「いいえ」と答えたら、担当スタッフはどこをどのように変更する必要があるのか尋ねてください。JBC イベントスタッフは、競技者の要望に合わせて、協力してこれらの調整をすることができます。JBC イベントスタッフは、いったんセットアップができたなら、競技者に準備時間の開始の合図をしてステージから離れてください。

7. 準備時間

7.1 準備時間の開始

競技者には、予選では 10 分間、準決勝及び決勝大会では 15 分間の準備時間が与えられます。1 つの独立した計測手段が確保されていれば、競技及び準備タイムキーパーを配置するかどうかはステージマネージャーの裁量に委ねられます。本ルール & レギュレーションを通じて競技及び準備タイムキーパーに関する指示は、ステージマネージャーがタイムキーパーを採用している場合にのみ適用されます。

競技者が指定されたステーションに到着し、自身の仕様にセットされていることを確認したら、公式の準備タイムキーパーが競技者に、開始の用意ができていようか確認します。競技者は、自身のステーションの一切の物に触れる前に、時計に接続されたリモコンのスタートボタンを押し、15 分間の準備時間を開始しなければなりません。競技者が手を上げて「はじめます (Time)」とコールした瞬間に、所定のタイムキーパーがストップウォッチの計測を開始します。準備時間の開始予定時刻になっても競技者の準備が整っていない場合、ステージマネージャーの裁量で時間を開始させることがあります。準備時間の開始前に準備を整えておくことは競技者の責任です。

7.2 カート

提供されたカートへの備品の積み込み及び積み下ろしは、競技者の責任で行います。JBC イベントスタッフは、準備時間が終わったら、カートを妨げにならない位置へ移動します。競技時間中にカートをステージ上に置くことは許可されません。もし、準備時間が終わった時点で、カートの上に品目が残っていても、競技者はカートから積荷を降ろすことはできません。競技者は、競技時間が始まってから、積荷を降ろしてください。(「9.2 アクセサリーを忘れたら」の項目を参照)。

7.3 審査員用プレゼンテーションテーブル

審査員用プレゼンテーションテーブルは、水の提供も含め、準備時間中にセットアップすることが可能です。もし競技者が、審査員用テーブルを競技時間中にセットしたいのであれば、準備時間中にセットしなくても構いません。

7.4 試し抽出

競技者には、準備時間中に試し抽出をすることをお勧めします。パック（ケーキとも呼ばれます）は競技時間開始時に、ポルタフィルターの中に残っていても構いません。ポルタフィルターは、競技時間開始時にマシンに装着しておく必要はありません。

7.5 カップを事前に温めておくこと

競技者は、準備時間中にカップを温めておくことができます。しかし競技時間の開始時には、カップの中に水が入ってはいけません。テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目に 0 点が付けられます。また、エスプレッソマシンの上に液体や材料を置いてはいけません。置いていた場合も、テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目に 0 点が付けられます。

7.6 準備時間の最後に

競技者は、準備時間を越えて準備することはできません。準備時間のタイムキーパーは準備時間中、競技者に、残り時間が、10 分（準決勝/決勝大会のみ）、5 分、3 分、1 分、30 秒のときに、アナウンスします。準備時間が経過した時点でタイムキーパーは、タイムコールを行い、一歩下がってくださいと声をかけます。時間内に準備を終えることができない競技者は、以下の「タイムペナルティ」の項目に示されているペナルティを受けます。

8. 競技時間 (Competition Time)

8.1 マイク使用及び司会者からの紹介

すべての競技者は、競技中、ワイヤレスマイクの装着を求められます。競技時間中のみ「Live 状態 (放送状態)」になっています。準決勝・決勝大会では、司会者は競技者を紹介します。

8.2 競技時間の開始

- A. 司会者は、競技者の準備ができていないかを尋ねます。競技者は競技を開始する前に、競技時間を計測するタイマーのスタートボタンを押すか、ステージマネージャーから指示された方法で競技開始の意思表示をしてください。競技時間のタイムキーパーは、競技者の意思表示と同時にストップウォッチによる計測を開始します。
- B. 競技時間の経過の確認は競技者の責任ですが、競技者はいつでも時間の確認を求めることができます。タイムキーパーは競技者に対し、残り時間が、10分、5分、3分、1分、30秒のときにアナウンスします。（予選大会では10分のアナウンスは行いません。）タイムキーパーは、これらのアナウンスをリアルタイムで行う責務を負っており、競技者が話している最中にもアナウンスがあるかもしれません。
- C. もし、何らかの理由によりタイマーが故障してしまった場合、競技者は自身の競技時間を止めることができません。その際には、タイムキーパーの時間が公式タイムとなります。競技者は上記の時間のアナウンスを受けることになります。

8.3 競技者自己紹介（ジャッジへの挨拶）

競技時間の開始時に、競技者は、4名のセンサリージャッジと1名のヘッドジャッジに自己紹介（挨拶）をしてください。4名のセンサリージャッジとヘッドジャッジは審査員用プレゼンテーションテーブルの後ろにいます。2名のテクニカルジャッジはステーションの端もしくはステーションの後ろに立ち、競技者の邪魔にならないように細心の注意を払います。シャドージャッジがステージ上に同席する可能性もあります。シャドージャッジは、競技者の邪魔や、審査の邪魔にならないように、センサリージャッジの後ろか、ジャッジテーブルの端に位置します。シャドージャッジはプレゼンテーションの採点を行いません。シャドージャッジは競技者のパフォーマンスについてメモを取るために同席するだけで、デリバレーション中（審議中）にジャッジが確認するために採用されることもあります。シャドージャッジは必須ではありません。

8.4 規定のドリンクの提供

- A. すべてのドリンクは、審査員用のプレゼンテーションテーブルに提供してください。審査員用プレゼンテーションテーブルに提供されなかったドリンクは、センサリースコアシートの「テイスティングエクスペリエンス」と「テイスティング描写の的確さ」の項目が0点となります。
- B. 競技者は、各ドリンクカテゴリーにおいて4名のセンサリージャッジにSCAJが提供する味のついていない水を提供する必要があります。競技者が、自身で用意した味のついていない水をジャッジに提供することは許可されておらず、SCAJ提供の水に何かを添加することも禁止されています。競技者は、競技開始時または最初のドリンク提供時に水を提供することができます。また、プレゼンテーション中に必要に応じてグラスに水を注いでください。

8.5 ボランティアスタッフが提供されたドリンクを下げるについて

それぞれのカテゴリーのドリンクが提供され、審査員により評価された後に、ヘッドジャッジの指示により、ボランティアスタッフは審査員用のプレゼンテーションテーブルよりドリンクを下げます。ボランティアスタッフは、直前のドリンクカテゴリーで使用したカップ&ソーサーとスプーンのみを下げます。もし競技者がボランティアスタッフに特別な指示を出す場合には、競技時間開始前に、ボランティアスタッフ、ヘッドジャッジ、JBC イベントマネージャーにその指示をよく説明する必要があります。もし、ヘッドジャッジとJBC イベントマネージャーに特別な指示がなく、本来は競技者が必要とする食器がボランティアスタッフによってステージから下げられた場合は、その該当する食器は「9.2 アクセサリーを忘れたら」に従って回収することが許可されます。ボランティアスタッフは競技者の邪魔にならないように最善を尽くしますが、競技者は自身のステーションへうまく誘導する責任があります。

8.6 作業エリアの区画周辺について

競技者は、SCAJ から提供されたマシンテーブル、ワークテーブル、そしてプレゼンテーションテーブル（審査員テーブル）のみを使用することができます。いかなる家具や設備の持込みも失格とみなされます(例えば、スタンドテーブル、移動式配膳台、作業台等)。競技者は、物を置くために競技用テーブル下のスペースを使用してはなりません。違反した場合、テクニカルスコアシートの「作業ステーションの管理能力／競技終了時の作業場の清潔さ」の項目が0点となります。例外として、スタンド式のノックボックスや、バリスタがエスプレッソマシンやプレゼンテーションテーブルに完全にアクセスするためにステップやプラットフォームが必要な場合は使用が認められます。これらの追加物は競技者自身が用意する必要があり、その管理責任もすべて競技者にあります。

8.7 競技時間の終了

- A. 競技時間は、競技者が手を挙げて競技終了の意思表示（「タイム (time)」の宣言など）をした時点で終了します。時間を正確に記録できるよう、宣言は明確に行うことが競技者の責任です。採点に使用されるのは、ヘッドジャッジまたは公式タイムキーパーが記録した時間のみです。
- B. 競技者は任意のタイミングで競技を終了することができます。例えば、最後のドリンクをプレゼンテーションテーブルに置いた時点で終了を宣言することも、あるいは提供後に作業エリアに戻り、ワークテーブル等の清掃をしてから終了することもできます。
- C. 競技者は、規定時間よりも早く競技を終了したことによって、減点の対象となることはなく、また加点の対象となることもありません。

8.8 競技終了後のコミュニケーション

競技者は、自身の競技時間が終了した後に、ジャッジに対して話かけないでください。競技時間後に行われたコミュニケーションは、採点評価の対象になりません。競技者は、競技時間の終了後に司会者との会話を続けることができます。ジャッジは、競技時間終了後に行われた会話や説明を評価において考慮しません。

8.9 タイムペナルティ

- A. 競技者が割り当てられた時間内に、準備もしくはプレゼンテーションを終えることができなかった場合、完了するまで続行することができます。
- B. 規定の時間を超えた場合、総得点より、毎秒1点の減点となります。最大の減点は60点（1分）です。
- C. 準備時間及び競技時間に対し、超過時間が合計60秒を超えた場合、競技者は失格となります。

8.10 コーチング

ステージ上にいる間、外からのコーチングはいかなる時点でも許されていません。もし、コーチングが行われた場合には失格となります。競技を妨げない範囲での、サポーター及び観客、他のチームメンバーからの喝采は大いにしてください。コーチ、サポーター、友人、家族がステージ上に上がることや、進行中の競技を妨害することは許可されません。これに違反した場合、競技者はステージマネージャーまたはヘッドジャッジによって失格とされる場合があります。

9. 技術的な問題について

- A. 準備時間及び競技時間中に、SCAJ が提供する機器や設備に下記のような技術的問題があると感じた場合に、競技者は手をあげて「テクニカルタイムアウト」を宣言することができます：

- i. エスプレッソマシンについて（電源、スチーム圧、制御システムの不具合、水不足、排水の不具合など）
 - ii. グライNDERについて
 - iii. オーディオ・ビジュアル設備について（例えば、競技者の音楽、マイク等）
- B. 準備時間中はステージマネージャーが、競技時間中はヘッドジャッジが、準備または競技時間を一時停止します。「テクニカルタイムアウト」が宣言された際の時刻は、公式タイムキーパーが記録します。タイムキーパーが「テクニカルタイムアウト」が宣言されたことを認識しているかどうかは、競技者自身の責任となります。
 - C. ステージマネージャーもしくはヘッドジャッジが、技術的な問題があることに同意し、それが容易に解決できる判断した場合、競技者にその分の適切な時間が与えられます。技術担当者がその問題を解決したのちに、競技者の競技時間は再開されます。
 - D. 技術的な問題がすぐに解決できない場合、ステージマネージャー、もしくはヘッドジャッジは、競技再開を待たせるか待たせないか、競技を中断し、再度割り当てた時間で競技を再開するかどうかを判断します。
 - E. 競技を中断しなければならないと判断された場合、競技者、ヘッドジャッジ、ステージマネージャーの協議により、競技スケジュールを再設定します。
 - F. 技術的な問題が競技者のミスによるものと判断された場合、ヘッドジャッジは更なる時間を競技者に与えない場合があります。その場合、競技者は経過した時間は保証されずに、そのまま競技時間は再開されます。
 - G. 大会用の設備機器に精通していないことはテクニカルタイムアウトの事由にはなりません。したがって、すべての競技機器の正しい使用方法を理解し、それに従うことはすべての競技者の責任です。
 - H. グループヘッド同士に一貫性が無いことや変動することは準備時間時のみテクニカルタイムアウトの事由となります。

9.1 妨害行為について

- A. ボランティア、ジャッジ、観客、カメラマンなどが明らかに競技者の障害物となった場合、競技者は追加時間を与えられます。ヘッドジャッジはこのことを考慮し、どれほどの時間を保証するかを決定します。
- B. 提供後、十分な時間があってもかわらず、審査員用のプレゼンテーションテーブルに、カップ&ソーサーやスプーンが残っていて、このミスにより競技時間の遅延が起こった場合には、競技者はその分の遅れを保証される場合があります。これもヘッドジャッジの責任において決定されます。

9.2 アクセサリーを忘れたら

- A. 競技者が準備時間中に設備機器やアクセサリを忘れていた場合、ステージマネージャーまたはタイムキーパーに申告し、ステージ外に出て忘れ物を取りに行くことができます。ただし、その間も準備時間のタイマーは停止されません。
- B. 競技者が競技時間中に自身の設備機器やアクセサリを忘れていた場合、ヘッドジャッジに自身で忘れ物をステージ外に取りに出るということを申し出てください。しかし、この間の競技時間のタイマーは停止されません。
- C. ボランティアスタッフ、サポーター、チームメンバーや観客に、何かを持ってきてもらうことはできません。競技者以外の者による忘れ物アイテムの引渡し・回収は、ヘッドジャッジの判断により失格の対象となります。

10. 片付時間

競技者は競技を終えたら、作業エリアの後片付けを始めてください。イベントスタッフは、バックヤードより競技者が荷物を下げるためのカートを運んできます。もし、競技者が自分自身でグラインダーや他の電気機器を持ち込んでいる場

合、イベントスタッフは作業エリアからこれらの機器を下げるのを手伝うことができます。競技者は、自身で持ちこんだすべての設備、及び供給品を下げた後、作業エリアをきれいに拭いてください。ジャッジは片付け時間中の作業については評価しません。

12. 競技終了後

12.1 採点

12.1.1 JBC 公式記録について

SCAJ が公認した記録係が、すべての競技記録の集計、及び機密保持の責任を負います。

12.1.2 競技者の総合得点

競技者の総合得点は、2名のテクニカルジャッジと4名のセンサリージャッジの得点の総合計から、超過時間によるペナルティを減点することにより集計されます。

※ヘッドジャッジのスコアシートの得点は、競技者の総合得点にカウントされません。

12.1.3 同点の場合

2名以上の競技者の総合得点が同点であった場合、公認記録係は、センサリースコアシートのエスプレッソカテゴリー（センサリースコアシートの Part I の部分）の得点を計算します。センサリースコアシートの中で、エスプレッソカテゴリーの得点が高い競技者から上位とします。もし、エスプレッソカテゴリーの得点と同じであった場合、センサリースコアシートのミルクビバレッジカテゴリー（センサリースコアシートの Part II の部分）の得点が高い競技者から上位とします。もし、エスプレッソ・ミルクビバレッジ、両カテゴリーの得点と同じであった場合、センサリースコアシートの「総合的な印象」（センサリースコアシートの Part V の部分）の得点が高い競技者から上位とします。

12.2 デブリーフィング（振り返り）

競技終了後、競技者は発表されたスケジュールに従い、ジャッジとオンラインまたは対面でスコアシートを確認する機会が与えられます。JBC の終了後、競技会事務局は各競技者へ郵送によりそれぞれのスコアシートを送付します。JBC 終了後、スコアシートが公開される可能性があることをご了承ください。

13. 評価基準

13.1 ジャッジがバリスタチャンピオンに求めているもの

ジャッジは、以下のようなバリスタチャンピオンを求めています：

- A. 熟練した技術、職人としての技能、コミュニケーション能力やサービススキルが高く、バリスタという職業に対して情熱を持っていること。
- B. 競技中に提供されるドリンクを超えた、コーヒーに関する幅広い知識と理解を有していること。
- C. 高品質なドリンクを準備し、提供できること。
- D. 他者の模範となり、インスピレーションを与える役割となること。

13.2 評価基準と採点

13.2.1 評価方法の種類

評価方法には以下の4種類があります：

- Yes/No
- 点数評価（的確さ：Accuracy）：0-3点
- 点数評価（印象：Impression）：0-3点
- 点数評価（体験：Experience）：0-6点

13.2.2 Yes/No スコア

Yes = 1点、No = 0点

競技者はYesと判断されれば1点、Noの場合は0点が与えられます。

13.2.3 点数評価（的確さ：Accuracy）

- 0 – 評価対象なし（None to evaluate）
- 1 – あまり的確ではない（Not very accurate）（許容できる／標準）
- 2 – ある程度的確（Somewhat accurate）（良い／とても良い）
- 3 – 非常に的確（Very accurate）（優秀／並外れている）

スコアのレンジ（評価範囲）は0-3点です。0.5点きざみの評価は認められません。ジャッジは次のように採点してください。0点は、このカテゴリーで採点できるものがなかったことを示します（例：描写の説明がなかった）。1点は、このカテゴリーの評価要素が不的確またはあまり的確でなかったことを示します（許容できる／標準）。2点は、このカテゴリーの評価要素がある程度的確であったことを示します（良い／とても良い）。3点は、このカテゴリーの評価要素がほとんどまたはすべての的確であったことを示します。項目によっては評価された点数の2倍または4倍の得点が与えられます。0点の評価は、ヘッドジャッジの承認が必要です。

13.2.4 点数評価（印象：Impression）

- 0 – 評価対象なし（None to evaluate）
- 1 – あまり良くない（Not very）（許容できる／標準）
- 2 – ある程度良い（Somewhat）（良い／とても良い）
- 3 – 非常に良い（Very）（優秀／並外れている）

スコアのレンジ（評価範囲）は0-3点です。0.5点きざみの評価は認められません。ジャッジは次のように採点してください。0点は、このカテゴリーで採点できるものがなかったことを示します。1点は、このカテゴリーの評価要素の印象が低い、または標準的な印象であったと示します（許容できる/標準）。2点は、このカテゴリーの評価要素が良い印象または混在した印象であったことを示します（良い/とても良い）。3点は、このカテゴリーの評価要素が高い印象を与えたことを示します。項目によっては評価された点数の2倍の得点が与えられます。0点の評価は、ヘッドジャッジの承認が必要です。

13.2.5 点数評価（体験：Experience）

許容できない（Unacceptable） = 0

許容はできる（Acceptable） = 1

標準（Average） = 2

良い（Good） = 3

とてもよい（Very Good） = 4

優秀（Excellent） = 5

並外れて驚くべき（Extraordinary） = 6

スコアのレンジ（評価範囲）は0-6点です。1点から6点の間において、0.5点きざみの評価が得られます。ジャッジは、この評価範囲を全体的に（広く）使用して評価をすることが推奨されます。低い点数は体験の内容が劣っていることを示し、高い点数は優れていることを示します。項目によっては評価された点数の2倍または4倍の得点が与えられます。0点の評価は、ヘッドジャッジの承認が必要です。

14. テクニカル（技術面）の評価方法

競技者は、2名のテクニカルジャッジにより評価されます。以下はテクニカルスコアシートの説明です。

14.1 テクニカルスコアシート – Part I

14.1.1 開始時の作業エリアが清潔か／清潔なクロスは用意されているか

- A. 競技者の作業エリアの清潔さと整然としているか（ワークテーブル、プレゼンテーションテーブル、エスプレッソマシン上部）を1点から6点にて、評価します。もし、作業エリアが散らかっていたら、1点が与えられるでしょう。
- B. 作業エリアが実用的で、効率的に整頓されているかという競技者の能力を確かめます。
- C. 過剰準備は減点対象です。（例えば、ミルクピッチャーにミルクが注がれているなど。）
- D. 競技開始時に、最低3枚の清潔なクロスを準備する必要があります。クロスには用途が割り振られていることが求められます。（例えば、スチームwand用、フィルターバスケットの清掃・乾燥用、エスプレッソマシンテーブルの清掃用など。競技者のエプロンにつけられたクロスも1枚と数えます。）
- E. いかなる時であってもエスプレッソマシンの上部に液体が入ったカップなどがあった場合、「作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ」の項目において0点が与えられます。
- F. 競技開始時に、ポルタフィルター内にコーヒーパック（ケーキ）が入っていても構いません。この項目では、減点されません。

14.2 テクニカルスキル：エスプレッソ – Part II

テクニカルスキルの評価基準は、3カテゴリーのドリンクとも同様です。テクニカルスコアシートのPart II、III、IVの内容は同一です。

14.2.1 グループヘッドのフラッシュ

グループヘッドのフラッシングは、ポルタフィルターを外した後、各抽出の前に行われなければなりません。提供されるドリンクの抽出前にグループヘッドのフラッシングが行われた場合、ジャッジは「Yes」と記録します。

14.2.2 ドーシング前のフィルターバスケットは乾燥／清潔か

提供されるドリンクの作成前において、ドーシング前にフィルターバスケットを完全に乾燥し、清潔な状態にしていれば、ジャッジはYesをマークします。

14.2.3 ドーシング／グランド時に粉の無駄はないか

無駄とは、競技中に使用されなかったコーヒー粉のことを指します。つまり、無駄の対象となるコーヒーは、ドーシングチャンバーの中の粉、ノックボックスに捨てられた粉、カウンター上の粉、ゴミ箱や床に落とされた粉などをいいます。提供されなかったコーヒーによって無駄になった粉については、カウントしません。この項目では、カテゴリーあたりで5gまでの無駄があった場合には許容範囲とされます。使用されなかったコーヒーが、カテゴリーあたりで1g未満の場合には、5点もしくは、それ以上の得点を得ることができます。カテゴリーあたり5.1g以上の無駄が出てしまった場合には、0点となります。新鮮なコーヒーを得るためにグラインダーから取り除かれたコーヒー粉が適切な量であれば無駄とはみなされません。ドリンクに使用するコーヒーは全て競技者の競技時間内に挽かなければなりません。

14.2.4 一貫性のある効果的なドーシングとタンピング

競技者は一貫したドーシングとタンピングを実演してください。均等にコーヒー粉を分配し(ディストリビューションを行い)、適した力で水平にタンピングしてください。文化的な相違は考慮されます。

14.2.5 ポルタフィルターは清潔か (挿入前)

エスプレッソマシンに挿入する前にバスケットのリムやポルタフィルターの耳 (フランジ) をきれいにしてください。きれいになっていれば、Yes をマークします。

14.2.6 挿入と即時抽出

競技者はエスプレッソマシンにポルタフィルターを挿入したら、時間をおかず、ただちに抽出を開始してください。できていれば、Yes をマークします。

14.2.7 抽出時間が 3 秒差以内か

ジャッジは、すべてのショット (抽出) タイムを計測し、抽出タイムが 3.0 秒差以内であることを確認します。もし、同カテゴリーの抽出タイムが 3.0 秒以内の差であれば、Yes をマークします。抽出タイムは競技者がエスプレッソマシンの抽出ボタンを押したときに開始されます。提供されなかった抽出液のタイムは、この項目には含まれません。

14.3 テクニカルスキル：ミルクピバレッジ – Part III

最初の 7 項目は「テクニカルスキル：エスプレッソ」の評価と同一です。

14.3.1 開始時にピッチャーは空で清潔か

競技者は、冷たく新鮮なミルクを清潔なピッチャーに注いでください。準備時間中にミルクをピッチャー内に注いでおくことはできません。ミルクピッチャーは、内側も外側もきれいで、清潔にしておいてください。

14.3.2 スチーミング前のスチームワンドの空ぶかし

競技者はミルクピッチャーにスチームワンドを入れる前に空ぶかし (パージ) をしてください。

14.3.3 スチーミング後のスチームワンドをきれいにしているか

スチームワンドは専用のタオルできれいにしなければなりません。

14.3.4 スチーミング後のスチームワンドの空ぶかし

競技者はミルクをスチーミングした後、スチームワンドを空ぶかし (パージ) をしてください。

14.3.5 終了時にミルクの無駄は許容範囲か

ミルクピバレッジを作った後のピッチャーは、ほとんど空にしておいてください。無駄となったミルクの合計が 90ml/3oz 以下であれば許容範囲とします。

14.4 テクニカルスキル：シグネチャーピバレッジ – Part IV

※このカテゴリーの技術評価は、準決勝及び決勝大会にのみ適用されます。

評価基準は「テクニカルスキル：エスプレッソ」の評価と同じです。

14.5 テクニカルスキル – Part V

14.5.1 作業ステーションの管理能力/競技終了時の作業場の清潔さ

- A. テクニカルジャッジは競技者の道具や設備、アクセサリーの使い方など、全般的な作業の流れを評価します。
- B. 競技者は、エスプレッソマシンの正しい使い方と操作方法を理解していることを表してください。
- C. 競技者は、グラインダーの正しい使い方と操作方法を理解していることをはっきりと表してください。グラインダーを通して、コーヒーの取り扱い方も評価します。競技者は、ショット毎に、もしくは、カテゴリー毎にコーヒーを挽くようにしてください。
- D. テクニカルジャッジは、プレゼンテーションを通しての作業の流れを評価します。例えば、調理器具やカップ、アクセサリーの管理の仕方・整頓方法や置き場所、作業エリアでの競技者の動きや一連の流れ、清潔さやステーションの状態（設備、カウンター、タオル、ピッチャーの状態）などです。また、コーヒーや材料の取り扱い（ミルク、シグネチャービブレッジの材料）についても評価します。
- E. エスプレッソマシンの上部に液体や原料が置かれた場合には、この項目は0点となります。
- F. エリアの清潔さが評価されます。作業中にきれいにしておくこと（こぼした粉などを取り除いたり、テーブルを拭いたりすること）は、競技時間終了前にきれいにすることと同様に競技者の得点獲得の助けになります。エスプレッソマシンや作業テーブル上のすべての食器、道具（タンパー、カップ類、トレイ、ピッチャー等）はこの項目の評価対象となります。競技終了時に、ポルタフィルター内にコーヒーパック（ケーキ）が残っていても構いません。パックが残っていることはこの項目の評価に加味されません。

14.5.2 抽出口はきれいになっているか

- A. 競技者は、ポルタフィルターの抽出口（スパウト）についている水分もコーヒー粉もふき取り、取り除いてください。水で流したり、タオルを使用したり、指を使ったりして構いません。
- B. 各抽出の前にポルタフィルターのスパウトが清潔であれば、ジャッジは「Yes」をマークします。

14.5.3 プレゼンテーション全体を通して衛生的か

ジャッジは競技者のプレゼンテーション全体を通じた衛生的な取り組みに基づいて、この項目のスコアを決定します。プレゼンテーション全体で適切な衛生管理が行われていれば、ジャッジは「Yes」をマークします。

不適切な行為の例には以下が含まれます：

- ・ 顔や口などに触れた手でそのままドリンクを準備した場合
- ・ 床に触れた手でそのままドリンクを準備した場合

14.5.4 クロスの適切な使用

ジャッジは、競技者のクロスの使い方が適切かつ衛生的かを評価します。競技者は、スチームワンド用、フィルターバスケットの清潔・乾燥用、ワークステーションの清掃用と、それぞれの用途に応じてクロスを使い分ける必要があります。

不適切な使用例：

- ・ スチームワンドを専用タオル以外で拭いてしまった場合（スチームワンド以外の用途に使用した場合）
- ・ 顔を拭いたり、口を拭いたりするなど、衛生的でない使い方をしたり、食の安全でない使い方をした場合
- ・ 床に触れたり、落としたりしたクロスを再度使用した場合

15. センサリー（官能面）の評価方法

競技者は、4名のセンサリージャッジにより評価されます。以下でセンサリースコアシートについて説明します。

15.1 エスプレッソの評価 – Part I

- A. 全てのセンサリージャッジは、以下の手順でエスプレッソを評価します。センサリージャッジは、全ての評価ステップを完了してからスコアを記載します。
- B. センサリージャッジは、スプーンを手前から奥へ3回動かし、抽出液内の風味を混ぜ合わせて、即座にエスプレッソの味を取ります。センサリージャッジは、その抽出液を完全に評価するために、少なくとも2回飲みます。ジャッジは、スプーンから直接エスプレッソを口にして味をとることはありません。
- C. 競技者は、どのようにエスプレッソを評価してもらいたいかについて明確に指示を与えることで、評価手順（プロトコル）を覆うことができます。その指示が納得のいくものであり、他のルールに反しない限り、ジャッジは競技者のすべての指示に従うべきです。

15.1.1 クレマ

ジャッジは容器内のクレマの外観を視覚的に評価します。この項目で「Yes」をとるためにはクレマはエスプレッソの表面全体を覆っていて、かつブレイクしている箇所がないことが条件となります。

15.1.2 テイスト描写の的確さ

ジャッジは競技者のテイスト（フレーバー及びアフターテイスト）の描写と説明を聞き、それらと実際に提供されたドリンクに感じたテイストとを比較します。描写された説明とエスプレッソにあるフレーバーやアフターテイストがどの程度正確に一致しているかによって評価されます。テイストの描写説明は必須であり、ない場合はこの項目が0点となります。

15.1.3 タクタイル描写の的確さ

ジャッジは、競技者が描写するタクタイルの説明を聞き、それらを実際に提供されたドリンクで感じた厚みとテクスチャーと比較します。ジャッジは、描写された説明がエスプレッソのタクタイルとどれだけ正確に一致するかを評価します。比較して感じたものと説明が一致していても、タクタイルエクスペリエンスのスコアが低い場合、高い点数を得ることはできません。描写説明がない場合、競技者はこのスコアに対して0点が与えられます。

15.1.4 テイストエクスペリエンス

エスプレッソのテイストエクスペリエンスを評価して、ドリンクのクオリティー（品質）を判断します。ジャッジは、エスプレッソのフレーバーとアフターテイストの両方にわたって、エスプレッソの総合的な味覚体験を構成する要素を評価して、その品質・それらがどの程度調和しているか・それらがどの程度お互いを補完しているかを判断します。「フレーバー」とは、基本的な味（sweet, sour, salty, bitter, umami=甘み、酸味、塩味、苦味、うまみを含む）と香りの質を合わせた知覚と定義します。「アフターテイスト」とは、コーヒーを飲み込んだり吐き出したりした後に残る、基本的な味と香りの組み合わせの感覚と定義します。抽出液とコーヒーそのものの両方の味覚要素が評価されます。

テイスト（味覚）要素の1つ、または複数がエスプレッソのフレーバー体験を損なう場合（酸っぱい・えぐみがあるなど）、またエスプレッソのアフターテイストを損なう場合（苦みなど）は低い点数が与えられます。味覚要素が全体的な味覚体験にプラスに働く場合にはより高い点数が与えられます。

エスプレッソのバランスが崩れている場合（全体的なポジティブな体験を損なうような特定の味覚要素が不足している

場合、または特定の味覚要素がドリンクを圧倒している場合)、スコアは下がります。

※このスコア項目では、テイスト描写的確さは考慮されません。

15.1.5 タクタイルエクスペリエンス

タクタイルエクスペリエンス、つまりマウスフィールのクオリティ（品質）が評価されます。ジャッジは提供されたエスプレッソを口に含んだときの厚みとテクスチャーを基に評価します。エスプレッソにはその準備、抽出の方法、使用されたコーヒー豆に関連した触感体験がなければなりません。

「厚み」は、エスプレッソから知覚されるウエイトまたは粘度に関連しており、薄いものから厚いものまであります。テクスチャーは、例として「水っぽい」、「ティーライク」、「ベルベットのような」などの、ザラザラから滑らかな質感までの知覚的感覚として定義されます。厚みとテクスチャーの質は、口の中のエスプレッソの触感に基づくものです。「軽いウエイト」も「重いウエイト」も、どちらも、口の中のテクスチャーの質に比例して高いスコアを得ることができます。ウエイトやテクスチャーが（例として「水っぽい」、「ラフ」、「ダスティ」）などのようにエスプレッソ体験を損なう場合、低い点数が与えられます。ウエイトとテクスチャーの知覚がエスプレッソの体験にプラスに働く場合にはより高い点数が与えられます。コーヒーが口から無くなった後に存在する触感体験は、タクタイルエクスペリエンスに考慮される（例として「アストリンジェント」や「シルキー」など）。

15.2 ミルクビバレッジの評価 – Part II

- A. ミルクビバレッジは、すべてのセンサリージャッジにより下記のプロトコルを使用して評価されます。センサリージャッジは一貫性をもって、このプロトコルに従うようにしてください。センサリージャッジは、全ての評価ステップを完了してからスコアを記載してください。
- B. センサリージャッジはまずミルクビバレッジの外観の評価をします。次に、センサリージャッジはカップの縁のどの部分からでも最初に一口飲みます。その最初の一口目の後、カップの縁の飲んでいない部分から少なくとも、もう一口飲みミルクビバレッジを再考します。
- C. 競技者は、どのようにミルクビバレッジを評価してもらいたいかについて明確に指示を与えることで、評価手順（プロトコル）を覆すことができます。その指示が納得のいくものであり、他のルールに反しない限り、ジャッジは競技者のすべての指示に従うべきです。

15.2.1 外観的な魅力

ジャッジは、外観のスコアを決定するために、視覚的にミルクビバレッジを評価します。ミルクビバレッジはその表面に、ミルクと コーヒーの織りなすカラーコンビネーションを示していなければならない、くっきりとしたカラーコントラスト、カップ内のバランス、 左右対称のデザイン、滑らかさ、できるだけつやのあるガラスのような光沢を持っていることが望まれます。

ミルクビバレッジの上部にスパイスや粉末状の何かをのせてはいけません。そうした場合はセンサリースコアシートの「テイストエクスペリエンス」の項目が0点となります。

15.2.2 テイスト描写的确さ

ジャッジは競技者のテイスト（フレーバー及びアフターテイスト）の描写と説明を聞き、それらと実際に提供されたドリンクに感じたテイストとを比較します。このスコアは、その描写や説明がどれほど正確にミルクビバレッジのテイストエクスペリエンスに合致しているかに基づいて採点されます。テイストの描写や説明がない場合、この項目のスコアは0点とされます。

15.2.3 テイストエクスペリエンス

ミルクビバレッジはエスプレッソ1杯とスチームされたミルクで構成され、すぐに飲める温度で提供されるドリンクです。ミルクビバレッジのテクスチャーと温度、そしてコーヒーとミルクの味は味覚体験評価に含められます。ミルクビバレッジには、ミルクの甘みとエスプレッソベースの調和のとれたバランスが求められます。提供されるドリンクのテイストプロファイル（フレーバーとアフターテイスト）は、ミルクを加えることで作り出されるバランスとともに、スペシャルティコーヒーをサポートするものであるべきです。

15.3 シグネチャービバレッジの評価 — Part III

※このカテゴリーは、準決勝、及び決勝大会にのみ適用されます。

シグネチャービバレッジの評価は、競技者による多様なプレゼンテーションにより様々となります。センサリージャッジは、全ての評価ステップを完了してからスコアを記載します。

15.3.1 テイスト描写の的確さ

ジャッジは競技者のテイストの描写と説明を聞き、それらと実際に提供されたドリンクに感じたテイストとを比較します。このスコアは、その描写説明がどれほど正確にシグネチャービバレッジのテイスト（フレーバーとアフターテイスト）に合致しているかに基づいて採点されます。テイストの描写説明がない場合、この項目のスコアは0点とされます。

15.3.2 十分に説明、紹介、準備されているか

競技者は、ジャッジに対して、ドリンクの説明をしてください。高い得点を得るには、どのような材料を使用し、どのように準備（調理）したのかなどの事実に基づく説明や、ジャッジが体験するであろうフレーバー及び/もしくはアロマなどの説明が含まれていなければなりません。また、どのようなコーヒーを使用したのか、他の材料とコーヒーとの関連も説明してください。この項目を採点する際、ジャッジは提供されたシグネチャービバレッジの最終的な見た目の一貫性（量の均一性や全体的なプレゼンテーション）も考慮に入れます。すべて、または大部分のシグネチャービバレッジが提供されていない場合、このカテゴリーで高得点を得ることはできません。許容される無駄は合計20mlまでです。センサリージャッジは、競技者の行う、材料、準備（調理）方法、使用するコーヒーに関する説明を聞き、メモを取ります。ドリンクの提供前までに情報や指示が何もない場合には、ジャッジは各個人でシグネチャービバレッジの評価方法を定めるものとします。競技者は、センサリージャッジにどのように飲むのか（香りを嗅ぐのか、かき回すのか、少しずつ飲むのかなど）を説明しなければなりません。ジャッジは、競技者が最高の力を発揮できるよう、飲み方に関する競技者の指示をよく聞き、それに従います。もし何も情報や指示がない場合、ジャッジは各自の考えに従ってドリンクを評価します。ジャッジは、どのような場合でも、ドリンクを少なくとも2口は飲むようにしてください。ジャッジは、15分の競技時間中に競技者が説明したことや、そのほかの見て気付いたことに基づいてドリンクの評価をします。競技時間終了後（タイマーが止まった後や競技者から終了の意思表示がなされた後）に行われたいかなる説明も評価の対象とはなりません。

15.3.3 テイストエクスペリエンス

ジャッジは、エスプレッソとその他の材料の味覚要素が、シグネチャービバレッジの総合的な体験の中でどれだけうまく調和し、お互いに補完し合っているかでシグネチャービバレッジを評価します。シグネチャービバレッジのフレーバープロファイルが、エスプレッソのフレーバーを模倣したり、一致したりする場合には、高い評価を得られないかもしれません。新しいフレーバー体験を作り出すシグネチャービバレッジは、高い評価を得られるかもしれません。味覚要素の一つ以上がドリンクの体験を損なう場合（例えば、「酸っぱい」「えぐみがある」など）は、評価が低くなります。味覚要素がドリンクの体験にプラスに働いている場合は、より高い評価を得ます。ドリンクのバランスが悪い場合（つまり、特定の

要素が不足していることにより、全体的なポジティブな体験を損なう場合や、ある要素がドリンクを圧倒していたりする場合は、テイストエクスペリエンスのスコアが減点されます。

※描写的確さはこのスコア項目では考慮されません。

15.4 バリスタとしての評価 – Part IV

15.4.1 細部への心配り／すべての付属品は揃っているか

すべてのアクセサリはすぐに使用できる状態にあり、作業エリアは目的に沿って整理整頓されていなければなりません。すべての物にはそれぞれの配置と使用目的があるべきです。ジャッジは、競技者がミスをしたり、こぼしたりした場合に備えて、予備のカップやアクセサリが用意されているかを確認します。ジャッジの水のグラスに、水を注ぎ足すことも細部への心配りを見せることと言えます。

エスプレッソ及びミルクビバレッジは、ナプキン、味の付いていない水とともに提供されなければなりません。また、エスプレッソ及びミルクビバレッジは、スプーンを提供しなければなりません（ただし、競技者がドリンク評価プロトコルを覆し、スプーンを使わずに飲むよう指示する場合を除きます）使用されるカップが機能的でない場合や、適切なアイテムがすべて提供されていない場合は、スコアが減点されます。競技者がスプーンの使用なしでエスプレッソ及び／またはミルクビバレッジを飲むようジャッジに指示する場合でも、ナプキンと味のついていない水は提供しなければなりません。

15.4.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションは、バリスタのプレゼンテーション能力と競技パフォーマンスのコンセプトに基づいて評価されます。ジャッジは、競技者のコンセプト、手法、技術、使用する材料にオリジナリティがあるかを探し求めます。ジャッジは文化的及びバリスタの個性的な違いを考慮しつつ、自然で明確、かつ簡潔なコミュニケーション及びワークフローと時間を管理する能力を考慮します。礼儀正しさ、正確さ、気配り、アイコンタクトなどの優れたカスタマーサービススキルも考慮されます。

15.4.3 コーヒーの知識/機器、競技スペースの適切な使用

この項目はバリスタという職業に関連して見受けられる性質をもとに評価されます。これには技術、準備、そして12杯のドリンクの準備・提供を超えた広範なコーヒーの理解を示すことが含まれます。広範なコーヒーの知識（理解）とは「From Seed To Cup」におけるコーヒーの栽培、焙煎、カップに至るまでの準備などのプロセスに加えて、マシンの機器類の扱い方の正しい理解を示すことも含まれます。ジャッジは、提示された情報と提供されたドリンクとの相関関係を探します。競技者は、プレゼンテーションの中で自身のプレゼンテーションや自身のコーヒーを自由に操ることのできるコーヒーの専門家であることを示さなければなりません。

15.5 総合的な印象 – Part V

「総合的な印象」のスコア項目は、パフォーマンス全体の総合的な印象を把握するためのものです。ジャッジは、コンセプトがバリスタとそのプレゼンテーションによってどのようにサポートされているか、3つのドリンクカテゴリーがコンセプトをどのように補完し、強調したかを考慮する必要があります。

例えば、そのパフォーマンスは、コーヒーとの深い繋がりを感じさせてくれたか？バリスタのパフォーマンスは、システムマップの中で特定の要素をユニークに照らし出していたか？パフォーマンスは、スペシャルティコーヒーについて考えるきっかけになったか？その体験は、没入感があり、示唆に富み、スペシャルティコーヒーにとって重要であったか？そのパフォーマンスは、洞察に富み、インスピレーションを与えるものであったか？ドリンク、コンセプト、コンテンツ

提供の総合的な体験は、ジャッジにとってどの程度ポジティブなものであったか？そのパフォーマンスはコーヒーの技を称えるものであったか？ジャッジは、パフォーマンス全体に対する自分自身の印象に基づいて、自由に遠慮することなく評価尺度の全部を使用することができます。

16. JBC における不服申し立て

16.1 審査／採点に関する問題

スコアの採点や集計に関する質問のほとんどは、競技者のデブリーフィング（報告会）中に回答されます。もし競技者がスコアに不服を唱える場合、競技者はデブリーフィングの際にヘッドジャッジ及び／またはジャッジオペレーションリーダー（JOL）に会い、その不服を説明することができます。その申し立ては、ジャッジ・リーダーと SCAJ バリスタ委員会によって検討され、競技者へその決定を連絡します。

万が一競技の審査中に、ヘッドジャッジや他の SCAJ バリスタ委員会により、JBC 公認審査員の不誠実な行動が見つかったり、その可能性が予想されるという好ましくない事態が起こったりした場合、次のことが適用されます。

- ・ ヘッドジャッジは、疑惑のある評価の周辺にあるすべての競技者のスコアを公認記録係より戻すように依頼します。
- ・ ヘッドジャッジは、関係のある JBC 公認審査員を呼び、SCAJ バリスタ委員会とのミーティングによりこの状態を見極めます。
- ・ SCAJ バリスタ委員会は、非公開のミーティングにより裁決します。
- ・ もし、不誠実という問題が規模の大きい場合には、SCAJ バリスタ委員会は JBC 公認審査員を将来にわたり、JBC 認可の競技から除外する権限を持ちます。

16.2 その他の問題

競技者が競技中に JBC に関する問題（例：スケジュール、ロジスティクスなど）を抱えた場合は、現地の JBC イベントマネージャーに連絡してください。JBC イベントマネージャーは現地で問題解決に最善を尽くします。JBC イベントマネージャーは関係者全員に連絡を取り、問題を協議し、決定を下します。その結果は JBC イベントマネージャーより競技者に通知されます。

16.3 嘆願要請

もし、決定事項に同意できない場合は、SCAJ バリスタ委員会へ書面による嘆願を行ってください。SCAJ バリスタ委員会の決定は、最終判断となります。

SCAJ バリスタ委員会への異議申し立て、及び嘆願には、下記の事項を必ず明記してください。

- ・ 氏名
- ・ 日付
- ・ 明瞭簡潔な異議申立文書
- ・ 問い合わせの日時
- ・ コメント／解決案
- ・ 関係者名
- ・ 返信用連絡先情報

上記情報が含まれていない書面による異議申し立て、嘆願は、取り扱いません。また、最終決定が下される前に、進行中の競技に関する異議申し立てについて公の場で議論（SNS 等を含む公開コメント）を行った場合、その申し立ては棄却されます。不満の元となる決定がなされてから 24 時間以内に、競技会事務局へ E-mail (competition@scajconference.jp)

にて送付してください。

16.4 SCAJ バリスタ委員会における再検討される嘆願について

SCAJ バリスタ委員会は、書面による異議申し立て、及び嘆願を受け取ってから 30 日以内に再調査、再検討します。最終判断は E-mail にて連絡します。

17. CB が主催するイベント

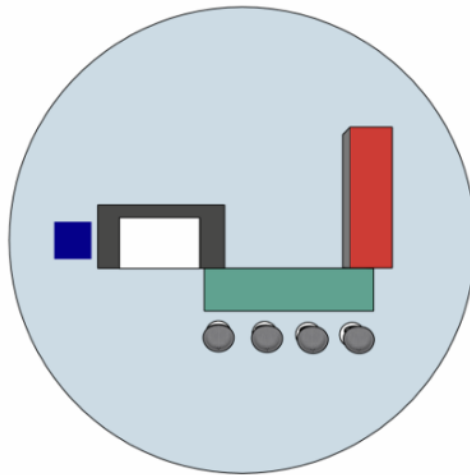
17.1 CB 向けルールバリエーション

以下には、コンペティションボディ（CB=競技団体）用のルールと、ワールドルール（R&Rに記載）における重要なルールの違いが記載されています。

上記に加えて、ロジスティクス上で調整可能と許されるルールバリエーションも記載されています。

CB 向けルールバリエーション（必須項目）：

- CB の大会は、センサリージャッジ 4 名、テクニカルジャッジ 2 名、ヘッドジャッジ 1 名で運営されます。
- CB は、提供するエスプレッソマシンのすべてのグループヘッドにおいて一律の温度を使用しなければなりません。
- CB は、以下に記載されている単一のステーションレイアウトを使用することが要求されます。テーブルの寸法は、可能な限り、記載されている範囲に近いものを使用してください。状況に応じて円形または正方形のメディア立ち入り禁止エリアを選択し、使用することができます。グラインダーはエスプレッソマシンのどちら側にも設置可能です。



- エスプレッソマシンテーブル(W1.8×D0.90×H0.75 – 1.00m)
- プレゼンテーションテーブル(1.8-2.4L×0.60-0.75W×0.75-1.00H)
- ワークテーブル(1.8L×0.60-0.75W×0.75-1.00H)
- ゴミ箱
- メディア立ち入り禁止エリア(直径 7m)

CB 開催イベントの運営において調整が許容されるロジスティクス：

- **現地の法律/規制の遵守**：CB は、現地の法律及び/または規制を遵守するために必要な場合には、国内ルールを変更することが可能です。いかなる変更案も、イベント開催前に info@worldcoffeeevents.org に送付し、承認を得る必要があります。
- **Rules and Regulations の翻訳**：CB は、この文書の翻訳を作成することができます。ただし、いかなる紛争を解決する場合にも、公式の「World Barista Championship のルール&レギュレーション」が使用されます。CB は、審査及び評価に関するルールを変更してはなりません。
- **ラウンド数/競技手順**：CB は、大会におけるラウンド数を変更することができます。ラウンド数及び各ラウンドの競技者数を変更することが可能です (例：CB は、競技者数及び大会のロジスティクスに応じて、「準決勝を行わない」ことや「競技ラウンドを 1 ラウンドのみ行う」ことなどができます)。Team Bar ラウンドは、CB が開催するチャンピオンシップでは必須ではありません。
- **最低競技者人数**：CB が開催する大会において、WCC 公認イベントである決勝戦を開催するために最低 6 名の競技者を必要とします。最低人数の 6 名に達しない場合、CB は、少なくとも大会の 2 週間前までに、リージョナルコミュニティディレクターに連絡しなければなりません。
- **予選**：CB は、チャンピオンシップに先立ち、予選を開催することができます。予選の構成は、CB に委ねられており、若干の形式の違いも許されます (例：センサリージャッジを 4 名でなく 2 名のみ採用、ドリンクカテゴリーを 3 種類から 2 種類に変更するなど)。チャンピオンシップの決勝大会では構成を変更することはできませんが、チャンピオンシップの決勝大会に向けて行われる予選大会では変更することが可能です。WCE からの Rep は、予選には参加する必要はありません。チャンピオンシップイベント (決勝大会) には WCE Rep が必要となります。
- **練習時間**：競技者の約束される練習時間の長さは変更することができ、CB が決定するものとしします。ただし、すべての競技者に同じ量の練習時間を確保しなければなりません。
- **練習場所**：練習は、ステージ上、バックステージ、または会場外で行うことができます。競技者の練習時間の場所は、CB が決定します。
- **提供機材**：CB は、WBC と同じスポンサーの機器や備品を使用する必要はありません。もし、CB が機器スポンサーを獲得した場合、CB は独自に機器の要件を指定することができます。
- **スコアシートの返却**：CB は、スコアシートの原本を競技会場で選手に返却しても良いですし、競技終了後に電子メールにて返却しても問題ありません。
- **マイクと音楽**：CB は、会場や利用可能な音響設備に応じて、競技者に音楽の再生やワイヤレスマイクの装着を許可する場合としない場合があります。
- **競技者のデブリーフィング**：審査員は、競技者とのデブリーフィング (報告会) の時間を持ちます。このデブリーフィングのスケジュールは、CB が決定します。デブリーフィングは、大会イベントの開催中または終了後に行うことができます。
- **競技者オリエンテーション**：すべての競技者は、大会前に同じ情報を入手する必要があります。すべての競技者は、提供される設備機器、練習のスケジュール、競技のスケジュールなどの情報を知らされている必要があります。

17.2 CB が開催するイベントにおける嘆願

もし競技者からイベント期間中に、CB が開催するイベントに関しての問題が提起され、もしくは異議申し立てがなされる場合、競技者はまずイベント主催者及び/または現地の WCC REP に連絡する必要があります。すべての問題は、でき

るだけ早く解決するよう努めるべきであり、現地での解決が最も効果的かつ適切です。大会終了後の申し立ては、効果的に仲裁することがより困難となります。 イベント主催者が問題及び／または異議が現地で解決できると判断した場合、イベント主催者は格当事者に連絡し、公平な代表の参加を確保します。競技者が提起した問題及び／または抗議は現地にて、イベント主催者及び現地 WCC REP が協議して共同で決定を下します。CB イベント主催者及び／または WCC REP が競技者に決定を通知します。もし競技者がその決定に不平不満を持ち、嘆願を望む場合、その競技者は、問題発生から 24 時間以内にウェブサイト (<https://wcc.coffee/rules-regulations>) から入手できる苦情フォームを利用する必要があります。その苦情は、提出先として指定された CB 及び WCC REP に転送されます。嘆願がロジスティクスに関連するものである場合、CB は調査及び仲裁（該当する場合）の全責任を負うものとされます。この場合、WCC REP は嘆願に関する相談役として参加しなければなりません。嘆願がジャッジやルール&レギュレーションに関連するものである場合、WCC REP はその問題を調査し、裁定の提案を CB に提示します。CB は必ず書面による申し立てに対応する責任があり、CB 開催イベントにおける苦情の第一窓口とみなされます。CB 及び WCC 担当者は、すべての書面による嘆願を受領後 24 時間以内に WCC スタッフに報告しなければなりません。ただし、WCC スタッフは CB の審査員やボランティアを直接認定または 管理する立場にはないため、彼らの行動を仲裁することはできません。CB イベントから発生した嘆願には、対応にさらに時間がかかる場合があります。嘆願書を提出した方は、30 日以内に解決することを期待してください。もし選手が、イベント期間中に、CB が開催する大会に関して問題を提起され、もしくは不服申し立てを成される場合、競技者はまず大会主催者及び／または会場の WCE 代表者（REP）に連絡する必要があります。すべての問題は、できるだけ早く解決するよう試みられるべきです。その場での解決が最も効果的で適切です。大会終了後の不服申し立ては、効果的な仲裁が困難となります。大会主催者が、その場で解決できる問題だとの判断を下した場合、各関係者に連絡をし、公平な対応を取るようになります。競技者からの問題提起や不服申し立ては、会場現地にて、大会主催者と WCE 代表者（REP）が協議して共同で決定をなされ、大会主催者及び／または WCE 代表 REP がその決定を競技者に通知します。もし、その問題が書面による不服申し立て／嘆願を必要とする場合は、問題発生から 24 時間以内に電子メールにて CB と WCE 代表に直接行ってください。不服申し立てがロジスティクスに関連するものである場合、CB はその調査及び、（該当する場合は）仲裁に、全責任を負います。もし不服申し立てがジャッジまたは規則に関連するものであれば、WCE 代表はその問題を調査し、仲裁案を提供することができます。CB と WCE 代表は、すべての書面による不服申し立てを受領後 24 時間以内に WCE に報告しなければなりません。ただし、WCE は CB の開催する大会の審査員やボランティアを直接認定・管理しないため、その彼らの行動を仲裁することはできません。CB イベントからの不服申し立てについては、対応にさらに時間がかかる場合があります。不服申し立てを行う方に対して、30 日以内に解決される必要があります。

18. 連絡先

18.1 SCAJ事務局

協会ホームページ: <http://www.scaj.org/>

18.2 競技会事務局

E-mail: competition@scajconference.jp

TEL: 03-6555-8791